

つながり若者センター通信

第6号 2023年8月発行

つながり若者センター

3年目を迎えて

令和3年4月に発足したつながり若者センターも、今年の4月に3年目を迎えることができました。

日々、仕事やお金、人間関係、障がいのことなど様々な困りごとや悩みごとを持つ若者たちと向き合っています。地域の支援機関の皆さまとの信頼関係を今後も大切にしていきたいと考えています。当事者の若者たちにとって、つながり若者センターがより身近で相談しやすい場所になるように、職員一同、努力をしていきます。皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い致します。



つながり若者センター コージータウン (アル・プラザ彦根内)

日々の活動の中で

私は令和3年秋に児童養護施設守山学園より相談支援コーディネーターとして、つながり若者センターへ派遣されました。若者たちの困りごとや悩みごとを一緒に考える中で、チームとして支援をしていくことの重要性を感じています。

若者たちの支援をしていく過程で、彼らがより自分らしく前向きになっていく姿を見られ、このことが私のやりがいとなっています。

新しい社会的養育ビジョンが示され、若者支援は大きく変わろうとしています。日々の積み重ねを大事にして、相談支援業務に取り組みしていきたいと思っています。

(九鬼)



つながり若者センター マザーボード (守山市)

<コージータウン>

生活相談	就労相談	個別会議
69件	15件	
医療関連支援	法律相談支援	11件
43件	12件	

<マザーボード>

生活相談	就労相談	個別会議
2,587件	861件	
医療関連支援	法律相談支援	99件
281件	25件	

相談方法は来所、訪問(アウトリーチ)、通信(電話、ライン、メール)です。

令和4年度相談支援実績

つな若キッチン

4月から『つな若キッチン』を始めました。月に一回の若者とのランチ会です。特長としては、作って食べたメニューを話し合うところから始めるということです。

「今日は何が食べたい気分？」ステーキ、お好み焼き、カレーは予想通り。魚に野菜、かす汁…意外？な希望も聞かれます。好みやこだわり、メニューの組み合わせ、そして在庫に予算、それなら何を買いに行こうか等、初対面だったスタッフも若者とひとしきり盛り上がり、その雰囲気のままに皆で近所のスーパーへ。そしていざ調理、という具合です。

もう一つの特長は、会場を固定しないアウトリーチ型であることです。参加する若者が生活している地域で公民館とその近所のスーパーを見つけ開催しています。こちらから出向き、新しいつながりの機会を作っています。これまで大津と草津で開催しましたが、近々高島での開催を予定しています。どんどん県内の色々な地域に出向きたいです。

今後は、施設や里親さんと連携し、高校生の参加も企画していこうと考えています。退所後の居場所や相談先の一つとして、「つな若」のことも知ってもらい、つながってもらおうというねらいがあります。施設の自立支援員やホーム担当者、また里親支援員や里親の方と一緒に来てもらうという退所後のイメージやちょっとした安心感につながると思っています。

まだまだ始まったばかりの取り組みですが、ぜひ色々な方にご参加いただいて、若者にとってより良い形にしていけたらと思います。(池畑)



つな若ダイニング

つな若キッチンに続き、『つな若ダイニング』も始まりました。毎月1回、週末の18時〜20時頃まで開催しています。『つな若キッチン』との大きな違いは、キッチンでは若者とスタッフが一緒に調理活動をしますが、ダイニングでは、スタッフが調理をして若者を出迎えます。大人でも週末は心が躍ると思うのですが、学校や仕事に限らず、それぞれの生活の中で頑張っている若者の、一週間の頑張りが疲れを労う、ほっこりとした場になればいいなと思っています。

5月・6月のダイニングでは、参加する若者に、何が食べたいかを聞いて、メニューを考えて準備してきました。若者と会話できる事はとても楽しく、快く話してくれる若者に救われています。スタッフとしては、「せっかくだし、お肉とか食べたいのかなあ？」とか考えたりするのですが、ある若者が食べたと言ってくれたのは、「オクラ」ということがありました。「オクラ？え、オクラ？」となりましたね(笑) もちろん好きやけど！わざわざ食べたいものにあげることなかったな〜と話し、オクラをスーパーで見かけると、オクラ好きの若者の顔が浮かんできます。

月1回の限られた時間ではありますが、季節や、天候・若者のリアルな状況に寄り添いながら、時間を共有できる場を大切にしていければと思います。

(松原)



つながり若者センターコージータウン

◆相談について

つながり若者センターコージータウンには1名の専門コーディネーターと2名の相談支援コーディネーターがおり相談業務を担っています。

主な相談内容は、「心身の調子に関わること」、「お金に関わること」、「人間関係について」といったものが多いです。電話や来所での相談の他、行政などの相談機関に相談し、その紹介により来所し、そこから私達が相談を受けていくという場合もあります。

どの若者にも共通して感じることは、「孤独や寂しさ」、「何でもない生活上の話が少ない」、「自分を認めてもらう機会が少ない」など。それゆえに、自己肯定感も低くなりがちな状況があるように感じます。

今後、応援してくれる人や機関を増やしていくことも必要ですが、「生きづらさを感じている若者の存在自体を承認しているよ」というメッセージが随時の相談の中で伝わるといういいなと思っています。

◆居場所について

☆モノづくり活動会

毎月1回、「モノづくり活動会」として「つながりCOZY食堂」も兼ね、活動会を開いています。現在は、さまざまな学園の先生にも協力いただき、皮材料で小物入れやキーホルダーを製作中です。若者の「やってみたい」の意見を取り入れながら、今後も楽しみがもてる活動として続けていけたらと考えています。



☆OEKAKI活動会

若者からの提案で、今年度から始まったお絵描き会(OEKAKI会)です。こちらも「つながりCOZY食堂」も兼ねて月1回開催しています。水彩色鉛筆やアルコールペン、あるいは持参の画材で、イラストやキャラクターを自由に描いています。

現在、「若者イベント」の開催に合わせ、これらの作品の「展示会」を開く計画をしています。額に入れた自分の作品がパネルに飾られるのを、皆、楽しみにしています。

中には絵画ではなく、ダイヤモンドアートや、アイロンビーズを展示したいと言う若者もいます。

☆夜の「つながりCOZY食堂」

若者食堂は、今年度より「つながりCOZY食堂」と改称しました。この「つながりCOZY食堂」は、翌日が休日だと働いている若者もホッとできるとして、毎月1回金曜の夜に実施しています。食事内容は「コージータウンカフェ」とも相談して決めています。おにぎりや味噌汁は、ほぼ定番です。

参加する若者が増えてきて、和気あいあいと美味しい食事をとりながら、ゲームをしたり、絵を描いたり、話をしたりと自由な空間となっています。

(雨森)



アル・プラザ彦根6Fの「Gottcha」こなわにて。

☆おやこサロン

毎週金曜日は、14時～15時30分、6階の「コージータウンカフェ」にて「おやこサロン」も開催しています。

「お父さんもお母さんも若者！」と、いうことで何か応援できたらと始まったサロンです。

サロン後はカフェでのんびりしながら過ごされるお母さんもおられます。

時には子育ての大変さの話を聞くこともあります。紙芝居や絵本、折り紙遊び、手遊び、踊りなども楽しめます。行事に合わせた簡単な工作もします。

対象年齢は幼児～小学校低学年のお子様と付き添いの方です。予約不要ですので飛び入り参加も可能です。
(北之防)



つながりについて

今年度4月より外部アドバイザーとして加わってくださった、中島秀夫さんにコラムを書いていただきました。😊

令和3年に発足した地域養護推進協議会(以下、地養協)の応援団の一人として参画しました。地養協の目指すところは、地域で生きづらさを抱えて暮らす若者(社会的養護を中心とした)に寄り添った相談活動を実施すること、その取り組みから地域関係者のネットワークを構築すること、さらに生活課題を整理し、より安心して暮らすことのできる社会づくりのための仕組みや制度を提案することだと思っています。

この考えは私が長年従事した、障害分野の自立支援協議会(以下、自立支援協)の活動がベースにあります。障害者の相談員が一人一人の生活課題に向き合い解決に向けて取り組む。その過程で相談員を核としたチームで支援する。個々の相談から地域課題を整理し自立支援協に報告する。自立支援協では優先される生活課題を解決するための仕組みや制度を検討する協議の場を持つ。そしてこれら一連の活動の核にいるのは間違いなくニーズに近い立場にいる相談員でした。



<地域養護推進協議会>

- ★つながり若者センター マザーボード
滋賀県守山市守山6丁目10-68 マザーボード内
Tel 077-582-2221 Fax 077-582-2330
- ★つながり若者センター コージータウン
滋賀県彦根市大東町2-28 アル・プラザ彦根店内
Tel 0749-21-6370 Fax 0749-21-6205



したがって地養協の活動の核はつながり若者センターと思っています。相談活動の拠点として、3年前守山のマザーボードが活動開始し、さらに昨年末から彦根のコージータウンが開所しました。障害分野の地域ネットワークに比べるとまだまだ応援団は少ないですが、数年後には応援団が増えて分厚いネットワークが構築されることになると思っています。

つながり若者センターが、地域で暮らす若者が困ったときに気軽に相談できる場所となり、そして若者を応援する関係者をコーディネートする機関として活動されることを期待しています。
(地域養護推進協議会参与 中島秀夫)